

命のパスポート

シリーズ 105

1月17日

結果をお知らせします！ 全市一斉総合防災訓練の

災害に備えて 防災訓練には必ず参加し、地域のかたと協力しながら防災活動に取り組んでください！

大地震！「うちは大丈夫」の目印は 黄色いハンカチ作戦

箕面市では、迅速な安否確認をするために、黄色いハンカチ作戦を進めています。

大地震の後、家にいる家族が全員無事だったら、黄色いハンカチ(大きく目立つ黄色い布)を玄関先などに掲げてください。災害時、ご近所さんに「うちは大丈夫!」と知らせる目印です。

黄色いハンカチがないと、1軒1軒「ピンポン」して安否確認をするので、とても時間がかかります。黄色いハンカチがあれば、迅速な安否確認が可能になり、助かる命が救えます。



黄色いハンカチで家族の無事を知らせる

家にいる家族が全員無事だったら、黄色いハンカチ(大きく目立つ黄色い布)を玄関先に掲げてください。黄色いハンカチは、ご近所さんに「うちは大丈夫」と知らせる目印です。



黄色いハンカチを目印に安否確認を行う

「安否確認分担表」をもとに、安否確認とりまとめ責任者などが、黄色いハンカチを目印に安否確認を行い、代表者が結果を避難所に報告に行きます。



自治会から届く安否確認の報告を集める

各小学校区の地区防災委員会の役員が、自治会から届く安否確認の報告を集めます。

※避難所はお住まいの校区の小学校です(北小学校はメイプルホール、萱野北小学校は第二中学校)。



各ご家庭で、絶対これだけは！ 3日分の水・食糧を 備蓄する！

水 9リットル×家族の人数
ひとり1日3リットルの飲料水が必要です(4人家族なら9リットル×4人)
箱ごと買って物置に入れておいてください！

食糧 普段食べているものでOK!
調理しなくても食べられるものをそろえてください
●レトルト食品(おかゆ・雑炊・シチューなど)
●缶詰・ビン詰め食品

冷蔵庫やパントリーはいつもいっぱい!
普段から、多めに買い置き、古いものから消費して、使ったらまたすぐ買い足しておく。常に「新しい在庫」を家に置いておきましょう。

今回1月17日(金) 地区防災委員会が各小学校区の避難所でさまざまな訓練を実施しました！

豊川北小学校区では、防災倉庫にある資器材の使用訓練を行い、小学5年生の子どもたちと一緒に、手回しラジオやトランシーバー、発電機などの使い方を確認しました。その他の校区でも、避難所運営訓練や、木造模型を使った振動実験などを行い、多くの市民のみなさんにご参加いただきました。

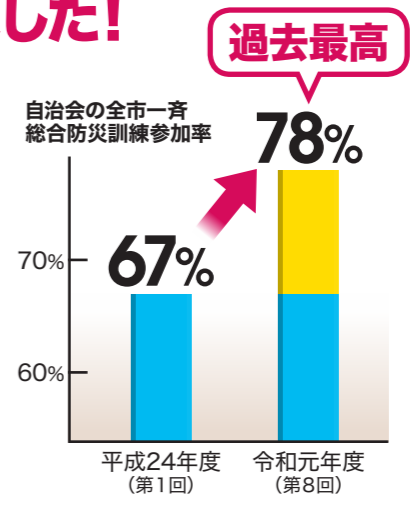


今回1月17日(金) 全市立小学校で「保護者への引き渡し訓練」を実施しました！
全市立小学校で、保護者への引き渡し訓練を実施し、900人以上の保護者のかたにご参加いただきました。この訓練は、子どもたちが学校にいるときに地震が発生した際、保護者のかたにお子さんを確実に引き渡すことができるよう実施したものです。訓練当日は、保護者のかたに、お子さんの確認や引き取りのサインなどをさせていただき、引き渡しまでの流れを確認していただきました。

78%の自治会にご参加いただきました！

今年全市一斉総合防災訓練で

1月17日(金曜日)、箕面市では8回目の全市一斉総合防災訓練を実施しました。今回は平日開催でしたが、自治会の参加率は過去最高となり、これまでの訓練で最も多くのかたに黄色いハンカチや声かけによる安否確認の訓練をしていただくことができました。これは、これまでの防災訓練への参加や、地域での防災活動に取り組んでいただいたこと、さらに、平成30年の大阪北部地震や、立て続けに発生した大型台風などを受けて、みなさんが高い防災意識を持ってくださった結果です。ご協力ありがとうございました。



防災訓練への参加が災害時の被害を最小限に抑えます！

今後さらに、一人でも多くのかたが防災訓練に参加し、安否確認の訓練などを行うことが、災害時の被害を最小限に抑えることにつながります。

例えば、箕面市と防災協定を結んでいる静岡県富士宮市では、近い将来の発生が予想される東海地震に備え、ほぼ全ての自治会が年2回の防災訓練に参加し、黄色いハンカチによる安否確認などを行っています。

箕面市と防災協定を結んでいる静岡県富士宮市は、自治会の防災訓練参加率が毎年ほぼ100%!

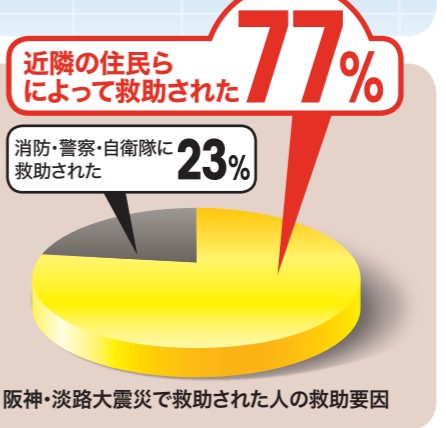


その結果、富士宮市では平成23年3月の静岡県東部地震(震度6強)で死者・重傷者ゼロでした!

平成23年3月15日の静岡県東部地震(震度6強)では、新潟県中越沖地震(死者15人・負傷者2346人)と同等規模の大地震であったにもかかわらず、黄色いハンカチ作戦による素早い安否確認などが功を奏し、死者0人、負傷者は軽傷の33人とどまりました。

また、阪神・淡路大震災では8割近いかたが地域の絆で命を救われました

地震などの災害が発生したとき、公的な機関だけで全ての命を救うことはできません。阪神・淡路大震災では、消防や警察などに救助されたかたは2割程度しかおらず、約8割のかたは、自治会など地域のかたに救助されました。



隣近所の素早い安否確認が、多くの命を救うことになります！